

委託業務に係る進捗状況報告

1. 団体調査

市内のスポーツ活動に取り組む団体や個人教室の活動実態を対話やアンケート等により調査し、部活動の地域移行に関する方針を説明し、中学生等の受入や指導等に関する意向確認を行う。

1) 調査対象の団体数

聞き込み調査(対話)及びアンケート調査(電子)を交えて市内で活動されている約500の団体へ調査を計画している。10月頃を目途に取り終え整理、分析、検討予定

調査対象:当協会加盟団体及びその登録チーム、総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、フィットネスジムを中心に市内で活動されるすべての各種スポーツ団体

2) 5月調査実績数 「団体7・個人2」

●聞き取り調査<対話式>

①	周南市少林寺拳法協会	徳原幸則 様	副理事長	加盟団体
②	周南市バレーボール協会	小土井政夫 様	事務局長	加盟団体
③	くめくめ倶楽部	末長裕昌 様	代表	総合型
④	株式会社徳山スイミングセンター	吉田英二 様	社長	スポーツクラブ
⑤	株式会社周南スイミングクラブ	片山英司 様	支配人	スポーツクラブ
⑥	スポーツクラブルネサンス徳山24	俵 陵司 様	チーフ	スポーツクラブ
⑦	フィットネスジム毛利道場	毛利昭彦 様	代表	フィットネスジム
⑧	スポーツインストラクター	山本恵夢 様	フリーランス	個人
⑨	体軸体操指導者・スポーツコーチ	深町和子 様	フリーランス	個人

※聞き取り調査と合わせて地域移行に関するアンケート調査19項目(電子)を依頼し提出いただいている。

3) 6月以降調査予定団体

- ・鹿野スポーツ振興会 今宿スポーツクラブ 榎浜地域スポーツクラブ キャプテン館 加盟団体、既に中学生を受け入れている(中学生が登録している)スポーツ少年団単位団
- ・スポーツ少年団等の組織に対してアンケート調査(電子)を広範囲で依頼する予定

4) 聞き取り調査の反応 <ヒアリング内容>

(1) 具体的な内容(抜粋)

- enjoy 志向、競技重視など参加目的が異なる中学生同士が同じ時間帯に活動するのは、個人種目、特に武道系であれば、対応可能かもしれないが、団体競技(球技系等)は難しいのではないか。
- 多様なニーズに答えるには、受入する団体に初心者向けの指導プログラム(マニュアル)を構築する必要あり。又、活動を継続する中で活動目的が変わってきた際のステップアップ(段階別の指導プログラム・マニュアル)の指導計画も前もって提示する必要があるのではないか。

- 多様なニーズに答えるには、受け入れる側が多様な要望に応えられる指導体制(人員、指導者のスキルアップも含めて)が必要。地方・田舎では難しいと感じる。(都会では金銭的負担さえあれば、いくらでも受け入れられる。)
- 受入を行う団体の相談窓口、受入れ団体同士の交流又は協議(課題や成功例等を共有する。)する場を設置してほしい。
- 高校教諭(専門的技術指導が可能)が2つの高校体育館で男子と女子のクラブチームを立ち上げ、1回練習参加時に200円徴収。活動している。(バレーボール)
- 競技団体内で協会のスポ少指導者、中学校教諭、高校教諭などワーキンググループを作り、それぞれの立場での意見交換を図り、数年後の地域移行に向けて話し合いをしている。
- 「選択肢が広がる」=「簡単に変更可(耐える力の欠如)」されど、「居場所作り(癒し・逃げ場等も含めた)」にもなる。

(2) 複数の団体からの共通した意見

- 民間スポーツクラブは部活動地域移行で受け入れる中学生と既存会員との会費との平等性を保てるのであれば、受入れは可能。水泳競技に関して中体連への登録条件が、活動時間の制限や休日の設定・確保など民間スポーツクラブの活動にはそぐわないので、登録してない。中体連主催大会への出場要望に応えられるように条件緩和をしてほしい。
- 地域が受入れた後も、中学校教諭がヒアリング・連携し、受入れているサークル団体と・指導者とのコミュニケーションを図ってほしい。(生活態度や活動中の様子等を共有)
- 今までは部活動において、無料で指導を受けていたが、活動するためには活動中の事故等の補償対応が重要になることが考えられ、指導する側からすると、まずその1歩として競技団体への登録をしてほしい。(金銭的負担が発生するので、行政からの補助等は考えているか。)合わせて、事故発生時の指導者に対する補償はどうなるのか。
- 中学生の多様な意向を重視するとすれば、受入側には限度・限界があり、活動・指導しやすい(負担にならない)形態で継続出来ることが重要ではないか。途中で破綻し、受入れ側が少なくなり中学生の主体的な活動が困難になるのではないか。

(3) 総括

地域での受入に対して、問題点(事故発生時の補償、中学生の金銭的負担(会員登録等)、定期活動場所の確保、多様なニーズに答えられるだけの資質を有した指導者の確保など)が解決できれば、受入は前向きに検討したい。＜受入の余地なしではなく、受け入れるのであれば・・・の視点で回答頂いている＞

2. その他(仕組構築状況、教室、フェスタ、シンポジウム等)

- 1) スポーツ団体・指導者を対象とした研修会・・・講師、日程、会場等、調整中
- 2) 休日クラブ実証事業・・・市教育委員会を通じて鹿野、須々万、熊毛中学校の3校を候補として、約10教室(準備室主催の休日クラブ実証事業)の開催を計画予定
- 3) しゅうなんスポーツフェスタ・パラトリウム大会・・・地域移行の機運を助成するような内容での開催に向けて関係機関(行政、大学等)と打合せ予定
- 4) シンポジウム・・・会場及び開催日の決定(12月23日(土))*学び交流プラザ) 登壇いただく有識者の選定を関係機関と協議中